

くすり一口メモ

高カリウム血症の新規経口治療薬について

高カリウム血症は、血清カリウム値が異常に上昇した状態を指し、致命的な不整脈や心停止を引き起こすことがあります。日本では30万人を超える患者が、慢性腎臓病の進行や、レニン-アンジオテンシン系阻害薬、遮断薬等の副作用により高カリウム血症を発症しています。

軽度の高カリウム血症に対する薬物治療では、陽イオン交換樹脂製剤であるポリスチレンスルホン酸カルシウム、ポリスチレンスルホン酸ナトリウムなどが使用されています。しかしこれらの薬剤は、他の電解質に影響する可能性があり、低カルシウム血症等の発現が報告されています。さらに、便秘をはじめとする消化器症状の副作用も広く知られており、新たな治療薬の要望が高まっていました。その様な中、2020年3月に国内初となる非ポリマー無機陽イオン交換化合物であるロケルマ[®]が保険承認され、同年5月発売開始となりました。そこで今回は、高カリウム血症の経口治療薬についてまとめました。

一般名	ポリスチレンスルホン酸Ca		ポリスチレンスルホン酸Na	ジルコニウムシクロケイ酸Na水和物
主な商品名	・ポリスチレンスルホン酸Ca 経口ゼリー 20%25g ・ポリスチレンスルホン酸Ca 顆粒 89.29%5.6g	・カリメート [®] 散 5g ・カリメートドライシロップ [®] 92.59%5.4g ・カリメート [®] 経口液 20%25g	・ケイキサレート [®] 散 5g ・ケイキサレート [®] ドライシロップ 76%	・ロケルマ [®] 懸濁用散分包5g ・ロケルマ [®] 懸濁用散分包10g
効能・効果	急性及び慢性腎不全に伴う高カリウム血症			高カリウム血症
用法	ポリスチレンスルホン酸Caとして 1日15~30gを2~3回にわける		ポリスチレンスルホン酸Naとして 1日量30gを2~3回にわける	開始~2日(最長3日):1日3回, 1回10g 以後:1日1回,1回5g 血液透析中患者は非透析日 に1日1回,1回5g
禁忌	腸閉塞の患者			
薬価	・ゼリー 68.4円/1個 ・顆粒 11.0円/1g	・散剤 12.4円/1g ・ドライシロップ 13.1円/1g ・経口液 72.0円/1包	・散剤 14.6円/1g ・ドライシロップ 13.0円/1g	・1,095.2円/5g1包 ・1,601.0円/10g1包
1日薬価	・ゼリー 205.2~410.4円 ・顆粒 184.8~369.6円	・散剤 186.0~372.0円 ・ドライシロップ 212.2~424.4円 ・経口液 216.0~432.0円	・散剤 438.0円 ・ドライシロップ 510.1円	開始~2日(最長3日)4,803.0円 以後 1,095.2円

ロケルマ[®]は、カリウムイオンの直径に近い平均³の均一な微細孔構造を持ち、消化管内でカリウムイオンを選択的に捕捉します。本剤の利点として、カリウムの正常範囲への低下が速やかであること、カリウム以外の電解質障害を発現しないこと、既存のカリウム吸着薬と比べて服用時の水分摂取量が少ないこと、1日1回の服用で治療できること、継続投与で消化器症状による投与中止がほとんどおこらないこと等があげられます。さらに臨床試験の結果から、血液透析を受けている高カリウム血症患者においても、正常カリウム値維持に有効であることが示されています。

しかしながら、既存の治療薬と比較し薬剤費が高額であり、長期での使用となると患者の金銭的負担の増大が懸念されます。このため患者の理解度や背景を十分に考慮し、薬剤を選択することが必要です。

参考資料：各社インタビューフォーム、アストラゼネカ社ホームページ、
独立行政法人医薬品医療機器総合機構ホームページ

(鹿児島市医師会病院薬剤部 青木 理歩)